

## 第7回 慈恵医大臨床アレルギー - 懇話会抄録

日 時：平成9年11月13日（木）

会 場：虎ノ門パストラル 新館5階 『 菊の間 』

会 長：上出 良一

当番世話人：今井 透

## プログラム

### テ - マ 『患者指導と生活指導』

座長：今井 透 先生

#### 1．アトピー性皮膚炎における患者教育と生活指導

慈恵医大 皮膚科 井上奈津彦 先生

#### 2．長期入院施設療法

慈恵医大 小児科 松田 秀一 先生

#### 3．インターネットのホームページを用いた花粉症の患者教育

慈恵医大 耳鼻咽喉科 今井 透 先生

# アトピー性皮膚炎における患者教育と生活指導

東京慈恵会医科大学 皮膚科

井上奈津彦

近年のアトピー性皮膚炎の増加とステロイド外用剤の副作用問題が、マスコミで過剰に報道されることがしばしばある。その影響もありステロイドの使用を拒否したり、民間療法に頼る患者も多い。しかし情報が氾濫し、なかには誤った知識、スキンケアが横行していることもよく見かける。アレルギーの発症にかかわる多くの問題、多種多様な増悪因子の問題、治療とスキンケアなどの正しい知識を、外来の限られた時間内で十分に説明することは不可能に近い。

そこで我々は患者教育のために年に数回アトピー性皮膚炎フォーラム（アトピー性皮膚炎を考える会）を開催している。それらの経験を踏まえ、患者教育と生活指導に沿ったアトピー性皮膚炎の病態と治療について概説する。

## 長期入院施設療法

東京慈恵会医科大学第三病院 小児科

松田 秀一、永倉 俊和

国立東埼玉病院 小児科

杉本日出雄

気管支喘息は定期吸入療法やB D Iの普及などにより重症例が減少したといわれている。しかし小児ではアウトグロウという現象が知られており、これに導くために、環境整備、心身の鍛練が重要なことは従来より指摘されている。薬剤の長期投与に対する患者、家族の不安という問題もある。

国立療養所東埼玉病院小児科では重症気管支喘息児に対し、長期入院施設療法を行っているが、治療、指導内容としては次の3項目がある。

- 1．心身の鍛練：規則的な生活と鍛練指導、自己コントロール法の習得など。
- 2．環境整備の指導：保護者会での勉強会、話し合い。
- 3．薬物療法：発作がコントロールされたら、短期間で薬剤の減量、中止。

当院に長期入院して退院した喘息児の入院時と退院時のデータを比較すると、薬剤の数、量はともに減少し、呼吸機能、気道過敏性（運動誘発性喘息、A c h 閾値）が有意に改善し、50m走、持久走などの運動能力も有意に向上した。

# インターネットのホームページを用いた花粉症の患者教育

東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科

今井 透、遠藤 朝彦

スギ花粉症は重症、中等症の患者が多く、その治療には薬物のみでの対症療法では十分な効果が得られないことが多い。そこで他のアレルギー疾患と同様に生活指導や他の治療法を組み合わせる計画的な治療が望まれる。

現在花粉症の治療には民間療法をはじめ様々な治療法がメディアを介し紹介されているが、患者の立場ではどの治療を選択するか判断することは困難である。外来を訪れた患者には説明を納得いくまで行いたい、スギ花粉の本格飛散期には患者が殺到し、十分な時間を割くことは困難である。そこで今年からインターネットのホームページを用いた花粉症情報の伝達を試みたところ、35000件のアクセスが得られ、アンケートの結果では88%が情報を活用し有用だったと答えている。

インターネットのホームページを用いた花粉症情報は、外来診療に比較し、少ない手間でより多くの患者に疾患の理解と自己管理を指導するのに有効と考えられた。